

# 私の工夫

「進んで人とつながりながら  
生き生きと活動する幼児をめざして」  
— 個の育ちを捉えることを大切に —

津山市立院庄幼稚園

主査 内田 弘華



## 1 はじめに

本園は、少人数の園であり、家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごしているが、友達同士刺激し合う経験が乏しい。また、核家族が多く、地域や様々な人々とかかわる機会が限られている状況にある。

一方、本園は、院庄小学校・院庄保育園に隣接し、保幼小連携が取りやすく、協力的で豊かな地域人材にも恵まれている。そこで、いろいろな人と交流する体験を意図的に保育に取り入れることで、「人とかかわる楽しさを味わわせたい」と考えた。こうした背景から、研究主題として「進んで人とつながりながら

生き生きと活動する幼児をめざして」— 個の育ちを捉えることを大切に — を掲げ、教師のよりよい援助や環境構成のあり方を探ってきた。

## 2 具体的な取組

① 幼児理解の工夫（個の育ちを捉えて寄り添う）

○ 『津山市における就学前教育・保育カリキュラム』をもとに「発達に応じた育ちの連続性」を踏まえ、一人一人の伸びようとする姿をしつかり捉え、「個の記録」として綴<sup>つづ</sup>っていく。その中で「育ち」や「変化」「課題」を見取り、個々に応じたね

らいをもった援助をする。また、職員間でその「個の記録」などをもとに、一人一人の成長や課題を共通理解し、実践に活かしていく。

○ 幼児の行動をしつかり見つめ、心の声に耳を傾け、思いを受け止める。教師は、見守って共感するだけでなく、育ちに願いをもち、タイミングよく、具体的な手立てや声かけをし、幼児の思いが実現できるように援助する。

② 思いや活動をつなぐ援助や環境構成の工夫（「学びの芽生え」を促す援助のポイント）

○ 幼児が「やってみよう」「おもしろそう」と心を動かし、夢中になって遊べる魅力ある環境を構成する。幼児の興味や好奇心・探求心を大切に受け止めて寄り添い、試したり、工夫したりしながら、思いっきり遊び込める体験の積み重ねを大切にしている。



A児が考えた“こま遊び”がみんなに広がりアイデアを出しながら深まっていく。工夫を重ね、世界に1つしかないこま作りに夢中になる様子

○ 教師は、個々の幼児のイメージや発想をつなぎ、遊びを園全体に広げていくという意図的なかかわりをする。友達とかかわりながらストーリー性のある活動になるよう援助する。

③ 様々な人とかかわりや心を通わせる体験・交流の場の工夫

○ 多様な人々と共に活動をする中で、思いや考えを伝え合ったり、心を動かし合ったりする場を工夫する。その中で、様々な人に



B児の思いをつないでいくことで、お店屋さんごっこのストーリー性ある遊びに発展した様子

### 3 成果

○個に寄り添い、思いや活動をつなぐ援助や環境構成に努めてきたことで、教師と幼児の信頼関係が築かれ、様々な人とのかわりを楽しむようになった。また、興味あるものを媒体として友達と同じ場を共有し、思いを伝え合いながら、生き生きと活動する姿が増えた。

親しみ、思いやりや優しさ、愛され感などにふれ、豊かな心情を培う。  
○隣接する保育園とは月1回、近隣の幼稚園とは、学期に2回、職員間でねらいをもって合同保育をすることで、同年齢の集団教育を充実させる。また、小学校とも行事を中心に様々なかわりをもち、学びをつないでいく。

○幼児が心を動かしていることを捉え、タイミングよく遊びの中に取り入れることで、自分の発想が認められている心地よさから自尊心を高めることができた。また、自分の思いやアイデアを出しながら主体的にかかわり、満足感や充実感が得られた体験から、意欲的



交流会で集団遊びを楽しんでいる様子(地域の作楽神社にて)



地域の方の温かさにふれながら昔あそびに夢中になっている様子

### 4 おわりに

に生活できるようになった。○様々な人とかかわる場の工夫から、地域の方の温かい気持ちにふれたり、同年齢の友達と、思いや考えを伝え合う喜びを感じることで心が豊かになってきた。

一人一人の幼児が自分の思いを素直に表すことができる教師の存在や幼児同士の温かい関係づくり

が大切である。一層教師や仲間から「自分は認められている」という安心できる環境づくりに努めていきたい。今後も、「幼児の実現したいこと」と「教師の育ちに向けての願いや経験してほしいこと」をつなぎ、進んで人とつながりながら生き生きと活動する幼児を育てることを目指していきたい。